

Library

The Tottori University Library Information No.88

目 次

良い本と出会うために 「真理はあなたがたを自由にします」 あのことろの一齣から 燈火春秋⑩ 本学教官著作寄贈図書 ミニシリーズ・情報検索コーナーより その1 利用状況 日本紹介コーナー 電気通信普及財団寄付金購入図書 平成8年度図書館カレンダー（その2）
--

良い本と出会うために

福 田 啓 子

私たちはこの秋、私達グループ結成20周年記念行事として東京子ども図書館理事長の松岡享子さんをお迎えし、講演会と研究会を開くことにしている。

松岡さんはウェスタンミシガン大学大学院で児童図書館学を専攻した後、ボルチモア市立イーノット・グラット公共図書館に勤務、その後帰国、大阪市立図書館を経て東京子ども図書館を設立、現在に至っている。児童文学の翻訳、創作、研究など活躍の場は広い。特に子どもたちにお話を聞かせることの重要性について、自らもお話を語りながら研究会など全国にわたり開いておられる。子どもは本来お話を聞く楽しさを十分知っている。しかし大人が子どもに向かってお話を語ることをしなくなって久しい。その原因についてはいろいろと云われている。核家族が増え、お年寄りが語らなくなった。子どもの興味が多岐にわたり、お話を聞く時間と場所を失った。夜が明るく、闇がなくなったことも理由のひとつに挙げられる。松岡さんは「お話は子どもに喜びを与えるだけでなく、彼らを文学に触れさせ、言葉の中にある音楽に耳を傾けるようにしむけるのに、お話以上の良い方法はない。」と云うアイリーン・コルウエルの言葉を引きながら、さらに松岡さんの認識と

して、「お話とは話そのものに文学的な価値があることを前提とし、文学的に価値のある作品とは、私達の心を楽しませ、人間についての私達の理解を助けてくれるもの」、「お話を聞く中で子どもたちは言葉の力と想像力を育てていく」と考え、さらに話す側と聞く側の人間関係をより強くするためには、話す側の声が言葉の美しさや魅力を、子ども達に伝える重要な要素としている。子どもに伝える方法としてテレビと云う媒体も考えられるし、実際にテレビが子ども達に大きな影響を与えていることは否定できないが、テレビとお話の異なるところは、テレビの場合、筋のほかに話を助ける場面が具体的に映像化されており、話以外の情報も伝えられてしまう。お話では筋だけが子どもの想像力に助けられながら伝わっていく。「むかし、むかし、おじいさんとおばあさんがおりました。」と語ったとき、聞いている子ども一人一人の頭の中には、それぞれ違ったおじいさんとおばあさんがイメージされている筈である。しかし、テレビの中ではおじいさんとおばあさんのほかに、おじいさん達が住んでいる家、その周りの情景など、本来おじいさんとおばあさんだけに焦点が絞られる筈が、焦点以外にも集中力が分散されてし

まう危険がある。また映像上のおじいさん、おばあさんは、すべての子どもが同一の人物を受け入れる素材になる。これではそれぞれの子どもが描く豊かなイメージを期待することにはならない。話の核心に注意を集中し、なおそれを持続する力を幼い時から育てること、字が読めない子どもが、お話を通じて文学に親しみを持つなど、お話が果す役割は大きい。どんな小さい子どもにも与えるお話でも、そのお話の中に文学の核、あるいは結晶体のようなものの存在が必要で、それがあって初めて子どもに理解され、お話の深さも発揮されると思う。お話の重要性を、実際にお話を聞く子ども達の目の輝きを見ると感動とともに強く感じるのである。また語彙、語感を育てる意味でも、お話が持つ力を私達はもっと信じなければならない。テレビを見ている子ども達、いや大人も同様にあの刹那的に通り過ぎていく情景の中で、いわば恍惚状態に陥り、ただ受け身のまま取り込むことは、自分で考え、自分で言葉を発する機会を失ってしまう。すべての物は細かな部分にいたるまで名称がある。自然の景色、心情など何によらず表現するための言葉が備わっている。語彙が貧弱になれば、語感も貧しいものになる。瀬田貞二さんは「幼い子の文学」の中で次のように語っている。柳田国男の「諺と謎々」では物の名づけは、「秋の野山を彩る野の草花があまりにきれいで印象的だと、子どもたちはその草花の名前をいろいろいかえてみる。たとえば曼珠沙華は『彼岸花』とか、たぶん子どもが言い出したのであろう『狐のたいまつ』など、それだけでイメージを喚起する力をもっている。こうした物の名づけは、身辺一切のものに向けられていて、水カマキリはその手の格好から『屋根屋のばばさ』目のさめるようなコバルト色のツキ草の花を『染屋のおかた』と呼んだり、イメージの転換による名づけをして、いい方を楽しんだにちがいない。それが子どもたちが言葉の技術に触れる第一歩だった」というのである。

松岡さんが言葉の大切さを子どものころから知って貰うために、良質な言葉を選ばなければならない、と説くように、良質な言語は思考を深く広くすることができる。流行語を使うこと、あれ、それなど使

うことも全面否定こそしないが、基本的に正しい言葉身を身につけておくことが必要だと思う。

ここで私達の現在の生活を振り返ってみると、あらゆるものをそぎ落とし、想像力を全く欠いた生活が営まれていることに気付く。要求するものはすべて出来上がった状態で手に入る。それが造られる過程を見る機会は失われてしまったし、自分で造ることもしなくなった。出来上るまでのあの煩瑣な手続きを省略した結果、一見合理的と見えながら、私達は身の周りを埋め尽くした、たくさんの物の一つ一つにまつわる歴史とか、物の素材、そこにたどるにいたった経緯など、多くのものを見失ってしまったようである。思い巡らす、想像する力を失ったと云って良い。出来上がったものだけに価値を見出すのではなく、造る過程を楽しむぐらいの余裕を持たないと、私達は間違った合理性だけを身につけた、貧弱な生活を送ることになる。このことは飛躍した物の考え方の方ではあるが、恐るべきことに読書の傾向にも当てはまりそうである。情緒的な言葉、文学的な修辞を欠いた、筋だけが動画的な語り口で進められていく作品が、もてはやされ発行部数も抜きんでいくという。イギリスのビアトリクス・ポターが今世紀の初頭に「ピーターラビットのおはなし」を初めさまざまな物語を書き、小さい子ども達が大変な喜びでそれを迎えたが、それらは非常に楽しいたくさんの事柄を、ぐいぐいと率直な言葉で綴り、確かな筋を動的に進めていくものであり、そこには文学性が潜んでいた。桂冠詩人であったジョン・メイスフィールドは、ポターの文章こそイギリスの散文の典型だと賞賛している。先の多くの人に読まれ発行部数を伸ばしている作品とか、漫画の台頭は文学性に富む言葉を削り取ってしまった。同じオノマトペ（漫画の場合はオノマトペではないかも知れないが）でも宮澤賢治のそれは心の琴線を揺する様な感動的な音である。繊細でいてそれで強靱な、心の襞の深くまで感動を伝えるような作品に、もっと触れる機会が持たれなければならない。

最後に図書館に対する提案であるが、良い本に出会う機会は、図書館において他にはあり得ない。もちろん自分で探す力をつけることも大事であるが、

図書館に行けば準備されていることが望ましい。人と経費の問題もあることは判っているが、研究室の本は研究室が準備するとして、それ以外の本をそろえる方策を考えて欲しい。特に自然系の図書が多いため文学作品の貧困さは目に余る。また古い書籍は

なかなか手に取り難いものであり、資料として価値のあるもの以外は処分することも考えて欲しい。

試験勉強だけの図書館にならないためにも、良質の図書の充実を願って止まない。

(農学部 助教授 獣医公衆衛生学)

Η ΑΛΗΘΕΙΑ ΕΛΕΥΘΕΡΩΣΕΙ ΤΜΑΣ

中島路可

ギリシャ語で「ヘー アレーセイア エリユーセローセイ ヒュマース」と読みます。「真理はあなたがたを自由にします」という意味です。出典は新約聖書ヨハネ伝 8章32節の言葉です。この言葉が国立国会図書館2階の中央出納台の上の壁に刻まれています。すぐ左側のところに訳語とおぼしきものが刻まれており、そこには「真理がわれらを自由にする」となっています。翻訳ということから云えば、「あなたがた」を「われら」としているのが明らかになります。でも誤訳ではありません。意識的にわれらとしています。

な意味をもっており、これらの言葉の解説にすら何冊もの本が書けるでしょう。

図書館は建物が立派で、本がいっぱいあればそれでよいというものではありません。図書館は利用されなければなりません。図書館は育ててゆくものだと思います。図書館は我々の先人達がのこしてくれた大切な遺産であり、今も生きつづけているのです。

大学が真理の探求の場であることを考えると大学における図書館の重要性についての意識をもっと高める必要があります。

ヘブライ語の学校を示すことばはベートシエフェル（本の家）です。大学における図書館の位置づけを象徴的に示しています。



「この写真は国立国会図書館の承認のもと絵はがき『国立国会図書館』から転載しました。」



フライブルグ大学 (写真提供 高階勝義氏)

国立国会図書館法前文に、「国立国会図書館は、真理がわれらを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される」と記しています。聖書の言葉にヒントを得て、モットーとしたと考えてよいでしょう。真理の探求という目的のために図書館の果す役割の重要性を表わした言葉といえるでしょう。

ドイツのフライブルグ大学の哲学科の教室の建物にも“Die Wahrheit wird euch frei machen”（真理はあなたがたを自由にする）とあります。学問に対する心意気が感じられてうらやましいかぎりです。

たとえ我々の図書館や校舎にこのモットーが刻んでなくても、私達のモットーとして常に意識したいものです。(地域共同研究センター 客員教授)

モットーにある真理、自由という言葉自身が重要

あの頃の一齣から

中山 精 一

戦後51年目を迎えた今年の夏、私にとっては、一つの時代が終わったという感慨を催さずにはおれない事件に遭遇した。わずか1ヶ月ほどの間に、あいついで、戦後の社会科学に大きな足跡を印した大塚久雄、丸山真男の2人の巨人が亡くなった。大塚久雄は既に全13巻の著作集を発刊していたが、丸山真男の場合、丸山真男集は刊行途次であり、しかも、8月15日という象徴的な日にある。私自身に関しては、残念ながら、両人の講筵に連なり警咳に接するという事はなかったが（大塚が顧問を務めていた学会に所属はしているが、足が不自由なうえ、なんども大病を患っていたので、ついぞその姿に接する機会がなかった）、物心がついた頃から、臆気ながらも社会科学とおぼしきものに憧憬をいだき、その道を志す過程で忘れることのできない影響を受けており、現在は社会科学者の末席を汚して糊口を凌いでいるが、2つの高峰は、いつまで経っても征服できない未登峰として屹立している。

批判者から近代主義者（市民社会派）として括られた大塚や丸山は、戦前から枢要な研究を展開していたが、社会的にもっとも大きな影響を与えるようになったのは、1960年代のことであり、1970年代になると、高度経済成長の結果、彼等が近代化の関心対象とした日本社会の性格そのものが変質をとげ、「問題」そのものが後景にしりぞくとともに、おのずと退潮していかざるをえなくなっていった。

この大塚や丸山が、現役の東大教授として活躍しているまさにその時期に、私は大学の経済学部を叩いたのである。それはあの60年安保闘争の前年であり、今上天皇がまだ皇太子時代、皇室としては民間からはじめて正田美智子さんを妃として迎えて婚儀がとりおこなわれ、そのパレードを群衆の一隅から見送った翌日のことであった。

4当5落（4時間しか眠らないで勉強した者は合格し、5時間も眠っていた者は落第する）といった言葉がまことしやかに新聞・雑誌で紹介されるよう

な受験戦争を体験してきていたので、それまでの抑鬱した生活が尾を引いて、率直に入学の喜びを味わえず、憂鬱なる党派のほろ苦い門出をしたことをおぼえている。

講義が開始される前の恒例の健康診断で体育実技の授業には耐えられずとの判定を下されるような身体状況だったので、運動系サークルは無論のこと、文化系サークルにも所属して活動するだけの余裕がなく、またクラスの大部分が興じていた麻雀にも手を染めることなく、講義時間以外は、通学の電車であろうと、講義のあいまであろうと、ひたすら読書に没頭する新入生生活であった。

中学・高校時代も、周囲と比べれば、他人よりも書物それも近代日本文学の古典には多く親しんでいた方であったが、なにしろ「受験」という大義名分の枷は強力で、人文・社会科学書に関しては、欲求不満が鬱積していたのである。こうしたフラストレーションが一気に噴出する格好で、手当たり次第に読み散らす現在に至るも習性となっている雑学屋的分散的乱読がはじまることになった。

しかし一方で、やはり専攻することになった肝心の経済学のことは大いに気懸かりであった。入学前から、日本独特の現象として、経済学の分野では、近代経済学（近経）とマルクス経済学（マル経）の対立というのがあることはうすうす見聞していた。戦前タブーであったマルクス（社会主義、共産主義）研究は、暗い谷間の厳しい弾圧のなかで黙々とつづけられていたものが、戦後になって一度に開花することになり、当時のほとんどの大学の経済学部では、マル経が圧倒的であった。そうした雰囲気や状況を反映していたのかどうか、私も大学に入ったらなにがなんでもマルクスをと勇んでいたのである。ところが、私の大学は、マルクス批判でならし、後には経済学で文化勲章を受けることになる小泉信三が長く学長を務めた伝統のあるところである、近経とマル経は精々相半ばといったところではなかっただろうか。

そして経済学部生用の経済学の講義にあてがわれたのは、近経の経済学のテキストの世界のベストセラー、サムエルソン『経済学』の原書（第4版）であった。サムエルソンの名前も初耳なら、まったく耳慣れない用語、概念の続出で、驚くやら、戸惑うやらでおおわらわであった。おまけに講義を担当したのが、人口論の専門家であったが、自慢話にうつつをぬかして一向に経済学のなかにまで踏み込んでくれないものだから、授業にはすっかり辟易してしまった。それでも『経済学』からは逃げ出すわけにはいかず、幸か不幸か当時まだ翻訳が出ていなかったものだから（1966年になって都留重人訳が出た）、自分でこれを訳してみることにして、講義が終わると、図書館にかけつけ、辞書片手に、サムエルソンと格闘する仕儀となったのである。英語はともかく、経済学の方面のことは初心者では歯が立ちそうもなく、悪戦苦闘の連続であった。結局チンプンカンプンの体たらくで、当初はドン・キホーテよろしく挑戦していたのだが、ついには放擲してしまうはめとなってしまう。この原書を手にしてみると、前半の三分の一ほどまでには手垢がついているが、あとは白紙答案同然といったところで、現在私の書棚を飾っている。

その後サムエルソンとのつきあいには、色々と紆余曲折があったが、職業として経済学を講じるようになってからは、その賛否は別にして、主流派（経済学界では新古典派と称する）のスタンダード・ナンバーは心得ておるべしという意味を込めて、学生諸君には一読を薦めているところである。

そうこうするうちに、大学生になってはじめての夏季休暇をむかえることになった。あの浩瀚なマルクスの『資本論』全3巻（向坂逸郎訳、岩波文庫全12分冊）の通読を計画、毎日ノルマを課していたが、これ又サムエルソンを凌駕する難物で、字面を追っかけるだけでも難行苦行の連続で、2巻3巻に至っては、機械的にページをめくるだけに終わってしまったのではないかと思う。その後の『資本論』遍歴についてその一端だけに触れておくと、学内には遊部久蔵という『資本論』研究の大家がいたものだから、有志と語らって「資本論」の講座を設ける運動

をして、これが功を奏することとなり、3回生になって、やっと念願の本格的な「資本論」講義に触れることができたのである。

『資本論』初体験の頃、これと平行して、従来文学書に傾きがちであった読書を人文・社会科学へと比重を移すようになり、そのなかに、大塚久雄や丸山真男も加えられるようになってきた。今手元にある、大塚久雄『増訂 宗教改革と近代社会』（みすず書房）の奥付けを見ると、1959年6月（第6版）となっているので、これ以前に読んだものも多少あるかもしれないが、大塚のものにはほぼこの時期に出会ったのではないかなと思う。

私の選んだ一冊、『宗教改革と近代社会』は、4つの小冊からなる、珠玉の名作である。これは、筆者自らが語っているように、専門的労作というべきものではなく、宗教改革に素人の著者が、専門の経済史の観点から眺めた、「半素人」の書いた、どちらかというと啓蒙的作品であろう。多彩で、こころにくいばかりの剴切な表現に感動した丸山真男の場合とちがって、透徹した論理と明晰な文体、又それらを背後でしっかりと支えている問題意識と方法意識に、清々しい心を洗われるような新鮮な感動を催したことを30有余年経った今も在り在りとおぼえている。その後大塚の作品については言うまでもなく、「大塚史学」批判にも数多触れてみたが、史実をめぐる解釈の相違等はさておいて、学問にも「品格」があることを教えてくれたのである。恒心なく、あっちこっちとふらふら迷走する私に、こころしてそこにもどって点検してみるべき原点として大塚の作品が存在しているのである。

（農学部 教授 経営管理学）

燈火春秋①

遠くで青く光るもの

— 校本宮澤賢治全集 —

伊 藤 恵

(1)

作家や詩人、思想家などごまんといえるが宮澤賢治ほど愛されている人は少ない。それは、第一に誰が読んでも面白い作品がたくさん残されたということ。第二に世の中の仕組みが賢治の生きていた頃よりもずっと複雑になったけれど、基本的には同じだということ。

(2)

賢治のトランク一杯の原稿、それは賢治の「子供たち」の登場するお話であった。が、単に子供たちが読んで面白いだけのお話ではなかった。子供や山猫や山男や熊や狐、象や夜鷹や蛙たちに託した賢治の願いであり、つらい世の中の縮図であった。

(3)

類まれなる擬音・擬声の名手であり、名付けの名人であった賢治の、面白くも哀しい、楽しくも静かな童話は、自分の愉しみのためだけに書かれたのではない。肉親との激しい争いも厭わなかった信仰生活の賜物である。それら作品からにじみでるものが、賢治の信仰の真実を伝えている。

(4)

が、作品で語られたことは仏教の一教義だけに留まらなかった。賢治の生来の気質、知識、実行力は、個人的・義務的な信仰を超えて宇宙の道理（ことわり）にまで彼自身を導いた。

(5)

実生活上はともかく、宮澤賢治は推敲の人であった。推敲に推敲を重ね重ね重ねて、終りがなかった。

名作「銀河鉄道の夜」にしても、削除・訂正・加筆を重ねて、ついに未完であったことは余りにも有名である。

(6)

しかし(と言うべきか。そしてと言うべきか)、ついに、賢治は信仰を超える信仰に立ち至った。「銀河鉄道の夜」は終りなき宇宙の軌道、終りなき生き死にを示している。そして、なお、不完全である。深い謎を残したまま。

(7)

原点に戻ろう。
母イチは幼い賢治たちを寝かしつけるとき、繰り返し繰り返し、枕元でこう語り聞かせたという。「ひとというものは、ひとのために何かしてあげるためにうまれてきたのス」※

(8)

それはどういうことなのか。
成長するにつれて、母親の言葉は賢治の人生の最大のテーマとなった。

(9)

今年は宮澤賢治生誕100年。新しい校本全集も出つつある。私たちはどこかで、青く明滅する異人（まれびと）宮澤賢治の魂に出会うかもしれない。

※第14巻年譜より

校本宮澤賢治全集全14巻
筑摩書房 1977年発行

(資料サービス係長)

本学教官著作寄贈図書

(平成7年1月～12月受入分)

この度は次のように寄贈していただきました。ありがとうございました。本学教官著作寄贈図書コーナーに配架し、利用に供しています。

(著者名のABC順。所属等は平成8年4月1日現在)

頭文字	寄贈者名・所属等	書名	発行所名・発行年	備考
AR	有田美千子 (元教養部教授)	深い湖	三谷三郎 1995年5月	著者
FU	福安勝則 (教育学部)	恋と愛からの言語学	朝日出版社 1995年9月	著者
HA	橋詰隼人 (元農学部教授)	有用広葉樹林の育成	橋詰隼人教授定年退官記念事業会 1995年3月	著者
IS	石原 昂 (元農学部教授)	こころの旅	富士書店(鳥取) 1994年12月	著者
IS	石原昂教授定年退官 記念事業会	農業機械学, 農用作業機械学 研究室のあゆみ	鳥取大学農学部生産環境工学講座 農用作業機械学研究室 1995年3月	記念誌
IT	板垣啓三郎先生追憶 集刊行会	追憶 故板垣啓三郎先生	板垣啓三郎先生追憶集刊 行事業会 1994年10月	記念誌
IT	伊東正一 (農学部)	Japanese and American Agriculture.	Westview Press, Boulder (Colorado) 1993年	執筆
IT	〃	世界のジャポニカ米 —その 現状と潜在的生産能力—	全国食料振興会 1994年11月	著者
KA	金山紀久 (元農学部講師)	野菜価格形成の経済分析	農林統計協会 1994年7月	著者
KO	近藤芳五郎 (元農学部教授)	山陰のマツ	近藤芳五郎 1995年1月	著者
MI	南 三郎 (農学部)	獣医臨床のためのキチンおよ びキトサン	ファームプレス 1995年3月	共著者
SA	佐藤俊夫 (農学部)	犁農耕成立起源論 Eduard Hahn 著	農林統計協会 1994年10月	共訳者
TO	豊島吉則先生退官記 念事業会	さんいんの自然 環境と産業 風土	富士書店(鳥取) 1995年1月	退官記念誌
TO	鳥取大学農学部家畜 微生物学教室	鳥取大学農学部家畜微生物学 教室論文集 第2巻	同教室 1995年(発行月は不明)	
UO	魚住侑司 (元農学部助教授)	日本の大都会近郊林 —歴史 と展望—	日本林業調査会 1995年12月	編著
YA	山岸正明(教育実践 研究指導センター)	ハイテクストレスと教育に関 する基礎研究	風間書房 1995年3月	共著者
YA	山根昌勝 (元乾燥地研助教授)	砂土におけるグレイソルガ ムの塩水栽培に関する研究	山根昌勝 1995年3月	著者
YO	吉田 勲 (農学部)	農地と文明	近代文芸社 1995年11月	著者
YO	吉村伸夫 (教育学部)	マーヴェル書簡集	松柏社 1995年7月	訳著者

ミニシリーズ・情報検索コーナーより その1

CURRENT CONTENTS が入りました!

学術雑誌目次速報として定評のある Current Contents 7 Edition のうち、Life Sciences と Clinical Medicine の 2 Edition を、この 8 月から図書館の ERL サーバにより LAN 経由で提供しています。図書館には、平日の朝 9 時から午後 5 時まで利用出来る端末を 3 台置いています、研究室に居ながらにして利用することも可能です。

そのための利用手続は、まず、学術情報係の申請用紙にユーザーネーム・パスワード等を記入提出して下さい。引替えにお貸しします検索ソフトをお手元のパソコンにインストールすれば、即刻利用出来ます。同じ申請用紙にて、医学部分館が提供しています MEDLINE の利用申込も出来ます。

なお、端末としてのパソコンの機種は、Macintosh、Windows いずれでもかまいませんが、つぎの条件をみたしている必要があります。

- ・メインメモリ 4 MB 以上であること
- ・ 8 MB 以上の空きがあるハードディスクを持っていること
- ・ 1.4M のディスクが読めるフロッピーディスクドライブを持っていること
- ・ LAN に接続していること

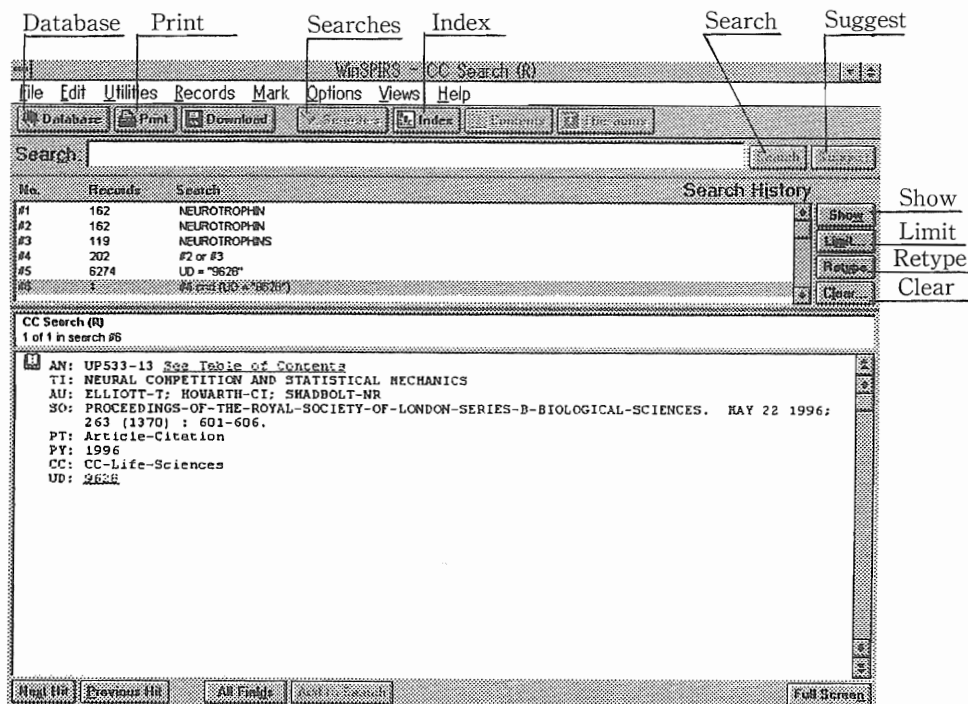
それでは今回は、Windows 対応である検索ソフト WinSPIRS を使用した Current Contents 利用のうち、基本的な検索方法を説明しましょう。

I データベースの選択

MEDLINE も同時に選択し検索することが出来ます。

必要なデータベースをクリックしては **ADD** ボタンを押し、右側に移動して下さい。出揃ったところで **OK** ボタンを押せば、次画面へ移ります。

II 検索画面における各ボタンの説明



Database : 他のデータベースを選択する時に使用 Print : 印刷時使用
 Searches : 検索画面を呼び出す Index : III(1)②を見よ
 Search : 検索実行 Suggest : III(1)③-3を見よ Show : 結果を画面表示させる
 Limit : III(1)③-2を見よ Retype : 青転部分を検索語として入力する
 Clear : 検索式の消去に使用

III 検索の実際

(1) Neurotrophin についての論文を求む

①一般的な方法

neurotrophin を入力後、 ボタンを押す。大文字・小文字を問わず入力出来るが、結果はデータベースごとに表示される。

② ボタンを使用する方法

neurotrophin を入力後 ボタンを押すと、索引語としての neurotrophin 前後の語がレコード件数と共に表示される。関連するもの、例えば neurotrophins をもドラッグした後 ボタンを押せば、自動的に OR 演算が実行される。

③検索フィールドを限定する方法

1レコードを構成するフィールドの種類は、次のとおり。

- * AN:Accession Number TI:Title
- AU:Author AD:Address of Author
- J I :Journal Issue(Table of contents)
- SO:Source * PT:Publication Type
- * PY:Publication Year IS:ISSN
- * LA:Language AB:Abstracts
- KW:Keyword
- KA:Author Keyword
- KP:Keyword Plus
- * JS:Journal Subject Categories
- * CC:CC Edition CN:Issue Contents
- NR:Number of Articles
- RF:Number of References
- * GA:Genuine Article Number
- * UD:Update Code

③-1 演算子 IN を用いる方法

①②ともデフォルト時の検索フィールドは、TI,AU,AD,SO,IS,KA,KP,AB。検索結果が多い時など、ノイズを少しでも少なくするために使用。

例：論題中に neurotrophin の語を持っているもののみ検索。
Neurotrophin in TI

③-2 ボタンを利用する方法

上記フィールドのうち、*のついたフィールドは、演算子を用いなくともこのボタンを押した後の画面表示から適切なものを選択して検索することが出来る。

③-3 ボタンを利用する方法

主題内容に関連する密度が高いフィールドのみ検索したい時に利用。2段階の検索が設定してあり、検索語を入力後このボタンを押せば、まず第1段階として TI,AB,KA,KP,JS フィールド中のレコード数を表示。この時新たに前面に開いた窓の中に入力した検索語に関連する語があれば、その語を選んで窓中の ボタンを押せば、今度はフィールドを KA,KP,JS に限定して検索する。

④その他

④-1 演算子

- A AND B : AとBを同時にみたすもの
- A OR B : AでもいいしBでもいい
- A NOT B : BではないA
- A IN ▲ : 指定したフィールド▲にAがあるもの
- A WITH B : AとBが同一フィールドにあるもの
- A NEAR B : AとBが同一センテンス内にあるもの
- A NEAR 2 B : AとBが2語以内にあるもの

④-2 Rerun search history

今行った検索式を、データベースを替えて走らせたい時に使用。検索画面のメニューバー下の ボタンを押して新データベース選択後、この項目をチェックして すれば、自動的に走る。

④-3 Save search history...

検索式の保存に使用し、Load And Run Searches で走らせる。両者共メニューバーの File の中にある。 (学術情報係)

附属図書館利用状況

年度別開館日数

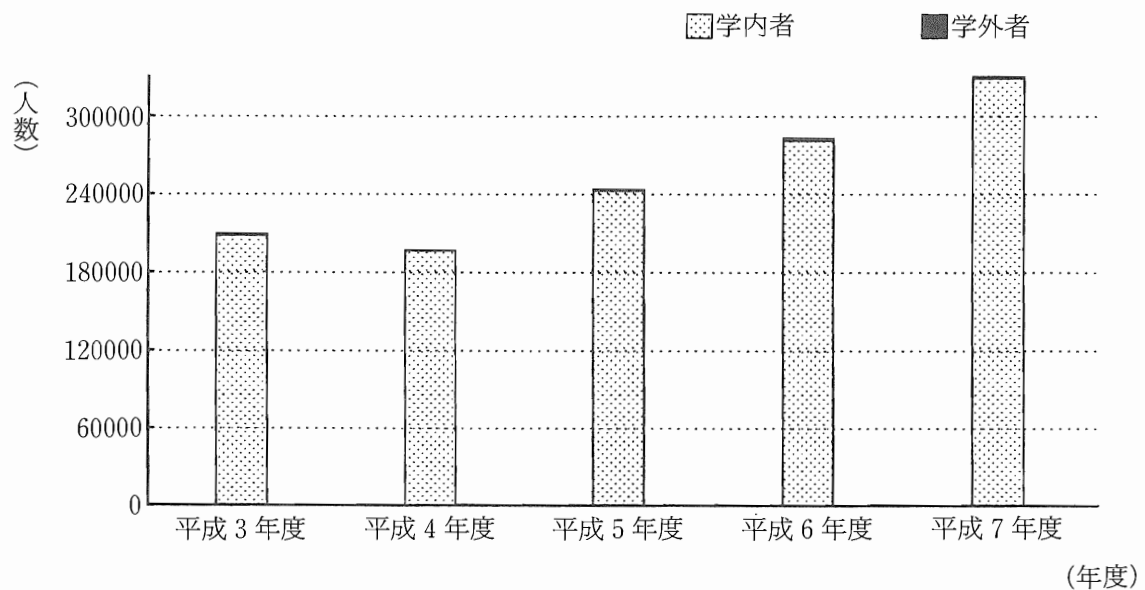
(中央館)

平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度
276日	263日	262日	260日	262日

年度別入館者数

(中央館)

	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度
学内者	208,581人	196,896人	242,698人	281,900人	329,801人
学外者	1,512	1,134	1,450	1,727	1,771
合計	210,093	198,030	244,148	283,627	331,572
1日平均	761	753	932	1,091	1,266

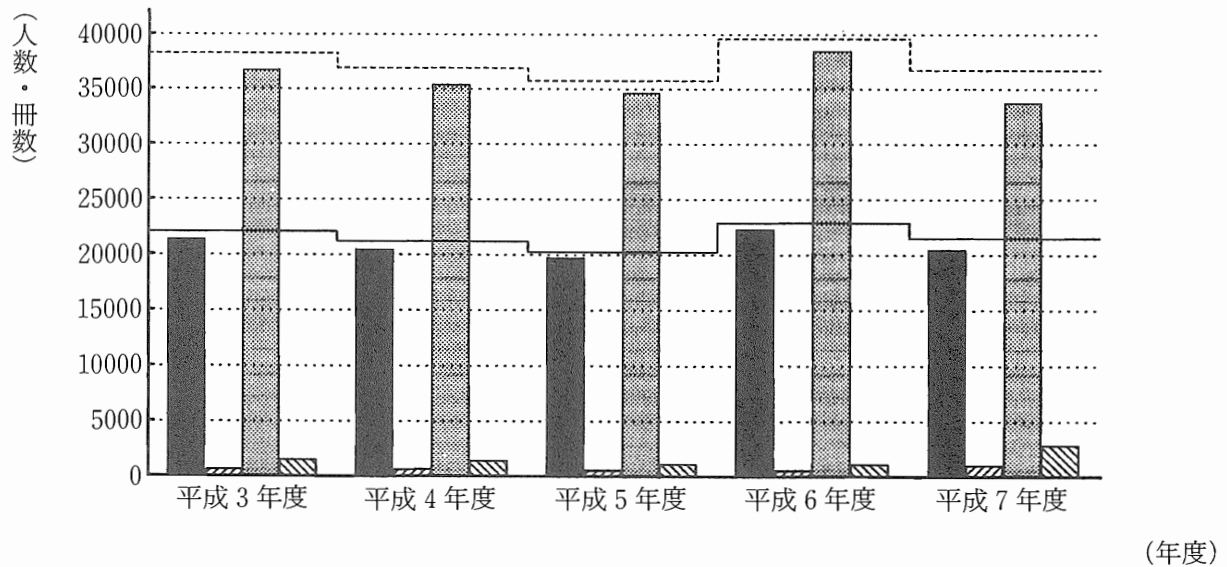


年度別貸出数

(中央館)

		平成 3 年度	平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度
貸出者数	教職員	751 人	732 人	599 人	584 人	1,071 人
	学生	21,457	20,569	19,758	22,320	20,525
	学外者	—	—	—	6	1
	合計	22,208	21,301	20,357	22,910	21,597
貸出冊数	教職員	1,540 冊	1,483 冊	1,201 冊	1,180 冊	2,963 冊
	学生	36,758	35,462	34,633	38,514	33,844
	学外者	—	—	—	9	1
	合計	38,298	36,945	35,834	39,703	36,808
1 日平均貸出冊数	教職員	6 冊	6 冊	5 冊	5 冊	11 冊
	学生	133	135	132	148	129
	学外者	—	—	—	0.03	0.004
1 人 1 回当り平均貸出冊数	教職員	2.1冊	2 冊	2 冊	2 冊	2.8冊
	学生	1.7	1.7	1.8	1.7	1.6
	学外者	—	—	—	1.5	1

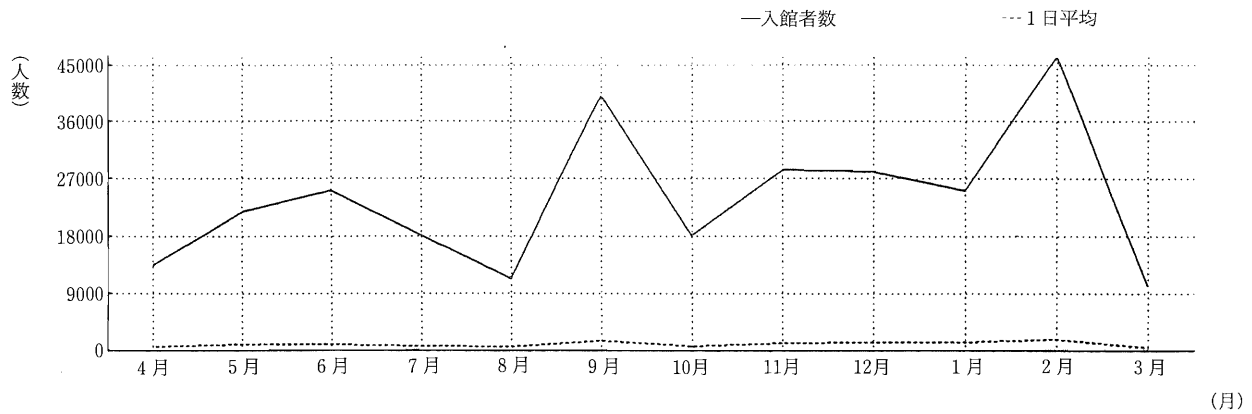
貸出者学生
 貸出者教官
 貸出冊学生
 貸出冊教官
 貸出者合計
 貸出冊合計



平成7年度月別入館者数

(中央館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	13,497人	21,864人	25,107人	18,162人	11,258人	40,068人	18,168人	28,307人	28,146人	25,119人	46,319人	10,266人
1日平均	675	994	1,046	826	662	1,541	757	1,231	1,340	1,322	1,852	540



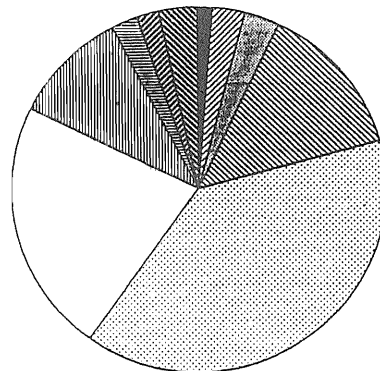
平成7年度分類別貸出冊数

(中央館)

分類	貸出冊数
総数	36,808冊
0 総記	479
1 哲学	992
2 歴史	1,042
3 社会科学	4,929
4 自然科学	14,445
5 工学	8,366
6 産業	3,682
7 芸術	832
8 語学	723
9 文学	1,318

0 総記
 1 哲学
 2 歴史
 3 社会科学
 4 自然科学

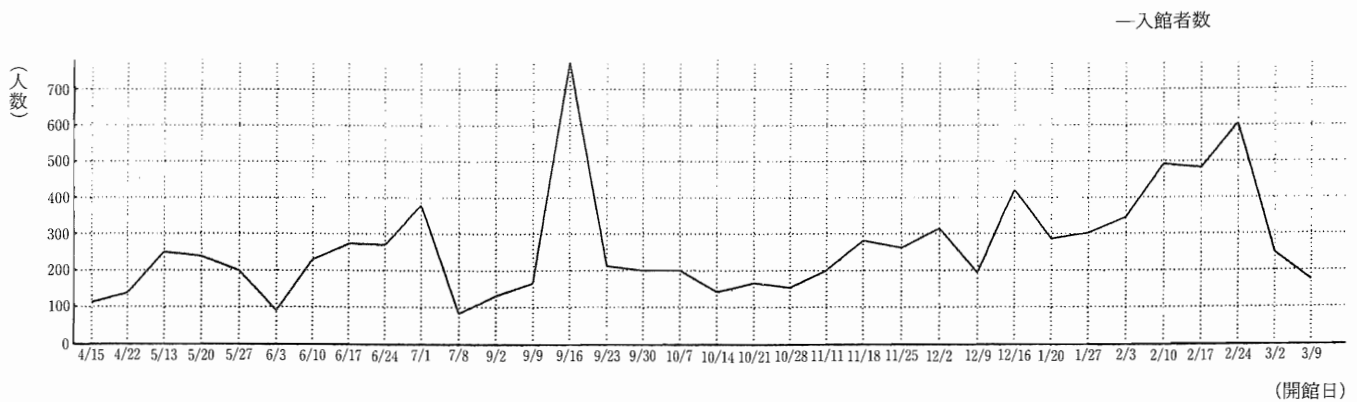
5 工学
 6 産業
 7 芸術
 8 語学
 9 文学



平成7年度土曜日入館者数

(平成6年4月～平成7年3月：34日間)

	4/15	4/22	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	9/2	9/9	9/16	9/23	9/30	10/7	10/14	10/21	10/28	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	1/20	1/27	2/3	2/10	2/17	2/24	3/2	3/9	合計	1日平均
入館者数	112	139	250	239	199	90	229	273	270	379	83	131	166	774	212	200	200	142	166	153	200	282	262	315	193	421	286	302	346	492	482	605	249	173	9,015	265



年度別雑誌貸出数

	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度
貸出人数	1,041人	1,074人	1,250人	1,076人	999人
貸出冊数	1,843冊	1,963冊	2,286冊	1,988冊	1,731冊
1日平均貸出冊数	6.6冊	7.5冊	8.7冊	7.6冊	6.6冊

平成7年度学外者利用内訳

1. 入館者数

1,771人(延べ)(6年度:1,727人 5年度:1,450人 4年度:1,134人)

2. 利用者数(利用許可願数)

順位	内 訳	人 数	比 率	備 考
1	1日だけの利用	53人	69%	
2	長期(3ヶ月)利用	24	31	
合 計		77	100	

3. 職業別内訳

1	その他	21人	27%	
1	会社員	21	27	
2	公務員(事務系など)	12	16	
3	学生②(中・高・専攻科生)	8	10	
4	教員(含:予備校講師)	5	7	
4	学生①(大学生・院生)	5	7	
5	大学教職員	4	5	
6	自営業	1	1	
合 計		77	100	

4. 地域別内訳

1	鳥取市	38人	50%	
2	県外	15	19	
3	郡部	12	16	
4	倉吉市	7	9	
5	米子市	5	6	
6	境港市	0	0	
6	国外	0	0	
合 計		77	100	

5. 利用内訳

1	文献調査	35人	45%	
2	閲覧	29	38	
3	学習	9	12	
4	見学	4	5	
合 計		77	100	

平成7年度日本紹介コーナー図書について

平成7年度は、学生部からご協力いただいた留学生用図書購入費で、31点(31冊)の図書を購入することが出来ました。ここに一括掲載して紹介します。留学生ばかりでなく一般の学生も大いに活用して下さい。

なお、選定には教育学部の風間先生(現東京外大)、筏津先生、吉村先生のご協力を得ました。ここに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(このリストは書名のABC順です)

著(編)者名	書名
Goodwin, James	Akira Kurosawa and Intertextual Cinema.
Flynn, J. R.	Asian Americans: Achievement Beyond IQ.
Lee, J. F. J.	Asian Americans: Oral Histories of First to Fourth...
Kim, Hyung-chan(ed.)	Asian Americans and the Supreme Court:A Documentary...
Reckert, Stephen	Beyond Chrysanthemums: Perspectives on Poetry East...
Gudykunst, William(ed.)	Communication in Japan and the United States.
Barnlund, Dean	Communicative Styles of Japanese and Americans: ...
Large, Stephen	Emperor Hirohito and Showa Japan: A Political...
Bosworth, R. J. B.	Explaining Auschwitz and Hiroshima: Historians and...
Ruhlen, Merritt	A Guide to the World's Languages. Vol.1.
Powers, R. G. et al.	Handbook of Japanese Popular Culture.
Dore, Ronald	How the Japanese Lean to Work.
Pedlar, Neil	Imported Pioneers: Westeners Who Helped Build...
Karshenas, Massoud	Industrialization and Agricultural Surplus: ...
Hook, G.D. et al.	The Internationalization of Japan.
Fugita, S. S et al.	Japanese American Ethnicity: The Persistence of...
Bingman, Charles F.	Japanese Government Leadership and Management.
Dawson, Carl	Lafcadio Hearn and the Vision of Japan.
Sullivan, Michael	The Meeting of Eastern and Western Art.
Cortazzi, Hugh	Modern Japan: A Concise Survey.
Moss, Joyce & Wilson, G	People of the World: Africans South of the Sahara.
Moss, Joyce & Wilson, G	People of the World: Asians and Pacific Islanders.
Moss, Joyce & Wilson, G	People of the World: Latin Americans.
Moss, Joyce & Wilson, G	People of the World: The Middle East and North Africa.
Moss, Joyce & Wilson, G	People of the World: North Americans.
Moss, Joyce & Wilson, G	People of the World: Western Europeans.
Hatamiya, L.T.	Righting a Wrong: Japanese Americans and the Passage...
Yanafisako, Sylvia Junko	Transforming the Past: Tradition and Kinship among...
Hendry, Joy	Understanding Japanese Society.
Hendry, Joy	Wrapping Culture: Politeness, Presentation, and...
King, Winston L.	Zen and the Way of the Sword: Arming the Warrior...

平成7年度電気通信普及財団の寄附金 による購入図書資料について

図書館では、平成6年度に引き続いて財団法人電気通信普及財団から、「次の世代を担う学生に、電気通信に関する理解を深めてもらいたい」という趣旨によって寄附金を受け、図書を購入しました。

このことにより、電気通信等に関する学生用図書をこれまで以上に充実させることが出来るようになりました。

ここに平成7年度購入分をご紹介します。リストは書名のABC順です。

1. 受入冊数 144冊（平成6年度は86冊）
2. 配置場所 総て閲覧室（それぞれ主題毎に分類・整理・配架）
3. 寄贈表示 タイトルページに「(財)電気通信普及財団寄贈」と表示
4. 利用形態 一般図書：学生の貸出期間は2週間 参考図書：辞書類は禁帯出。

	編 著 者	書 名	発行所・発行年
1	キンラン, J.R. 著 古川康一 監訳	AIによるデータ解析	トッパン 1995
2	里深文彦	AIと社会	同文社出版 //
3	岡本龍明 他	暗号・ゼロ知識証明・数論	共立出版 //
4	浪平博人	アルゴリズム	CQ出版 //
5	ラインゴールド, H. 著 会津泉 訳	バーチャル・コミュニティ	三田出版会 //
6	青野忠夫	ビル・ゲイツは近未来をどう捉えているか	中経出版 //
7	実業之日本社	文化系のためのマルチメディア	実業之日本社 //
8	岩田一明	CAD概論	共立出版 //
9	平林雅英	C言語による最新プログラム事典 第3巻	技術評論社 //
10	平林雅英	C言語による最新プログラム事典 第4巻	技術評論社 //
11	Holub, A.I. 著 川崎盛美 訳	C++オブジェクト指向システムの設計と実践	ビー・エヌ・エヌ //
12	渡辺康男	C++プログラミング最初に読む本	エーアイ出版 //
13	白取春彦	「知」の生産術	二期出版 //
14	川又三智彦 他	知的整理術	日本能率協会マネジメントセンター //
15	加山裕高 他	知的生産のためのパソコン技法	技術評論社 //
16	ボルター, J.D. 著 土屋俊 他訳	チューリング・マン	みすず書房 //
17	アイテック情報技術教育研究所	Computer Graphics 入門	アイテック情報処理技術者教育センター //
18	河村知信 他	第1種情報処理技術者試験合格完全対策	経林書房 1994
19	坂村健	電脳強化環境	パーソナルメディア 1995
20	島桂次	電子の火	飛鳥新社 //
21	通商産業省	データベース台帳総覧 平成5年度 台帳編	データベース振興センター 1994
22	通商産業省	データベース台帳総覧 平成5年度 索引編	データベース振興センター //
23	Albitz, P. 他著 浅羽登志 他監訳	DNS & BIND	アスキー 1995
24	佐伯彰一	読書という悪徳	文芸春秋 //
25	平原英夫 他	英和英コンピュータ用語辞典 改訂版	富士書房 //
26	綿貫啓一	エンジニアのためのCプログラミング	日刊工業新聞社 //
27	堀桂太郎 他	絵ときC言語マスターブック	オーム社 //
28	吉村賢治 他	EWSのシステム管理	オーム社 //
29	国際ファジィ工学研究所	ファジィ思考による知的情報処理	コンピュータ・エージ社 //
30	上田篤史 他	ForseEnginePro	ソフトバンク //
31	向殿政男	フォールト・トレラント・コンピューティング	丸善 1989
32	当麻喜弘 他	フォールトトレラントシステムの構成と設計	楨書店 1991

	編 著 者	書 名	発行所・発行年
33	当麻喜弘 他	フォールトトレラントシステム論	電子情報通信学会 1990
34	須藤修	複合的ネットワーク社会	有斐閣 1995
35	相坂一	フリーソフト分類目録	アスキー //
36	本多庸悟	画像処理と視覚認識	オーム社 //
37	平井由土 他	G U I 時代の情報システム	棋書店 //
38	中嶋正之 他	グラフィクスとマンマシンシステム (岩波ソフトウェア科学10)	岩波書店 //
39	鶴木真	はじめて学ぶ社会情報論	三嶺書房 //
40	T A C 情報処理試験研究会	標準コンピュータの基礎知識	T A C //
41	有澤誠	ヒューマンインタフェイス	実教出版 //
42	吉田真	ヒューマンマシンインターフェースのデザイン	共立出版 //
43	坂和正敏 他	遺伝的アルゴリズム 1	朝倉書店 //
44	北野宏明	遺伝的アルゴリズム 2	産業図書 //
45	Apple Computer, Inc. 著	Inside Macintosh: Macintosh Toolbox essentials 日本語版	アジソン・ウエスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン //
46	Gilster, P 著 小嶋隆一 他訳	インターネット情報検索ツールガイド	オーム社 //
47	石井威望	インターネット進化論	P H P 研究所 //
48	桂英史	インタラクティブ・マインド	岩波書店 //
49	実用コンピュータ用語辞典編集委員会	実用コンピュータ用語辞典	日刊工業新聞社 //
50	勝木太一	情報学	多賀出版 //
51	エイ・エス・ティ・システム・アカデミー	情報技術用語事典	コンピュータ・エージ社 //
52	日本情報処理開発協会	情報インフラ整備の現状と課題 情報化白書1995	コンピュータ・エージ社 //
53	熊田喜三男	情報時代の社会・経営	学文社 //
54	岡田稔 他著	情報科学基礎論	朝倉書店 //
55	坂和正敏	情報科学入門	朝倉書店 //
56	飯塚肇 他	情報環境は進化する	オーム社 //
57	増田祐司 他	情報仮想空間と日本の選択	富士通経営研修所 //
58	イングベルセン, P. 著 細田公男 他訳	情報検索研究	トッパン //
59	前川守	情報を整理する (1000万人のコンピュータ科学 2 (基礎論))	岩波書店 //
60	鷺田小弥太	情報の達人・知の達人	P H P 研究所 //
61	ブレイベク, P. 他著 三浦逸雄 他訳	情報を使う力	勁草書房 //
62	通商産業省情報処理振興課	情報サービス企業台帳・'95企業情報編	通産資料調査会 //
63	通商産業省情報処理振興課	情報サービス企業台帳・'95 SI 企業/SO 企業編	通産資料調査会 //
64	伊藤守 他	情報社会とコミュニケーション	福村出版 //
65	カッツ, G. 著 浦昭二 監訳	情報システムの分析と設計	塔風館 //
66	ウマー, A. 著 日本ヒューレット・パッカード株式会社 訳	情報システムテクニカルガイド	トッパン //
67	サウアー, C. 著 沢田芳郎 他訳	情報システムはなぜ失敗するか	日科技連出版社 //
68	上総康行 他	情報処理入門	中央経済社 //
69	佐藤東九男 他	情報処理入門	建帛社 //
70	廣松恒彦	情報処理システム 上 (情報処理技術者試験新1種重点ガイド 1)	日本経済出版社 //
71	廣松恒彦	情報処理システム 下 (情報処理技術者試験新1種重点ガイド 2)	日本経済出版社 //
72	山西万三	情報と消費の経済学	こうち書房 1994
73	日経マグローヒル社	情報・通信新語辞典 96年版	日経マグローヒル社 1995
74	広内哲夫	コンピュータ情報学	テクノ //
75	有澤誠	コンピュータサイエンスをいかに学ぶか	共立出版 //
76	Russell, D. 他著 山口英 監訳	コンピュータセキュリティの基礎	アスキー 1994
77	アイテック情報技術教育研究所	コンピュータシステムの基礎 第3版	アイテック情報処理技術者教育センター 1995

	編 著 者	書 名	発行所・発行年
78	川合慧	コンピューティング科学	東京大学出版会 1995
79	ベンローズ,R 著 林一 訳	皇帝の新しい心: コンピュータ・心・物理法則	みずす書房 1994
80	川上英 他	クライアント/サーバ・システム技術講座	ソフト・リサーチ・センター //
81	小館香推子 他	教養のコンピュータサイエンス	丸善 1995
82	中村義作 他	教養のための情報科学入門 増補版	近代科学社 //
83	Microsoft Press	マイクロソフトコンピュータ用語辞典 CD-ROM Windows 版 第2版	アスキー //
84	DiNucci,D 他編 テクニカルコア 訳	マッキントッシュバイブル 日本語版 第5版	技術評論社 //
85	中尾浩	マッキントッシュによる人文系論文作法	夏目書房 //
86	ジオデシック	マッキントッシュ入門	ソフトバンク //
87	森総合法律事務所 他	マルチメディアビジネスと法律	日本経済新聞社 //
88	産業タイムズ社	マルチメディア企業年鑑 1995年版	産業タイムズ社 //
89	寺島信義	マルチメディアと情報スーパーハイウェイ	H B J 出版局 //
90	吉川英一	マルチメディアと公共サービス	中央経済社 //
91	千田利史	メディア社会の未来地図	日本放送出版協会 //
92	Peek,J.D 著 倉骨彰 訳	MH & x m h	アスキー 1994
93	アヴァンインターナショナル	Microsoft Excel Ver.5 for Windows	ソフトバンク 1995
94	Hodges,M.E 他著 尾内理紀夫 他訳	M I T のマルチメディア	アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン //
95	高田信彦 他	ネットワークシステム事例研究	技術評論社 //
96	荒川幸式	ネットワークスペシャリスト試験必須用語集	日本能率協会マネジメントセンター //
97	Stern,H. 著 倉骨彰 訳	N F S & N I S	アスキー 1992
98	Lunde,K. 著 春扁雀来 他訳	日本語情報処理	ソフトバンク 1995
99	中野馨	脳をつくる	共立出版 //
100	久垣啓一	入門知的生産の技術	大和出版 //
101	石原光 他	入門情報処理数学	実教出版 //
102	パセイジ 他	入門 Visual C ++	翔泳社 1994
103	西川	ニューラルネットと計測制御 (システム制御情報ライブラリー11)	朝倉書店 1995
104	国際電気通信基礎技術研究所	ニューラルネットワーク応用	オーム社 //
105	ハット,A.T.F.	オブジェクト分析と設計	トッパン //
106	本位田真一 他	オブジェクト指向分析・設計	共立出版 //
107	渡辺栄一 他	O L T P システム	近代科学社 //
108	都倉信樹	オートマトンと形式言語	昭晃堂 //
109	西沢利治	パソコンでする超情報整理術	大和出版 //
110	Meyer,B. 著 酒包寛 訳	プログラミング言語理論への招待	アスキー //
111	馬場史郎	プログラミング手法と流れ図	工学図書 //
112	林晋	プログラム検証論 (情報数学講座 第8巻)	共立出版 //
113	寒川光	R I S C 超高速化プログラミング技法	共立出版 //
114	三菱総合研究所先端科学研究所	サイバースペース入門	日本実業出版社 //
115	情報サービス産業協会	再生・共生・新生のシナリオ 情報サービス産業白書 1995	コンピュータ・エージ社 //
116	竹田仁 他	産業社会と情報化の知識	日本理工出版会 //
117	松尾守之	社会の情報化とコミュニケーション	ブレーン出版 //
118	小池澄男	新・情報社会論	学文社 //
119	高度情報化利用技術者育成推進協議会	システムアドミニストレータ用語解説集	T A C //
120	廣松恒彦	システム構築と応用能力 (情報処理技術者試験新1種重点ガイド 4)	日本経済出版社 //
121	石崎俊	自然言語処理 (情報系教科書シリーズ 第17巻)	昭晃堂 //
122	Jones,C. 著 島崎恭一 他訳	ソフトウェア病理学	構造計画研究所 //

NO.88 (1996)

	編 著 者	書 名	発 行 所 ・ 発 行 年
123	廣松恒彦	ソフトウェア工学と応用知識 (情報処理技術者試験新1種重点ガイド 3)	日本経済出版社 1995
124	大場充	ソフトウェアマネジメント	HBJ出版局 1988
125	大場充	ソフトウェアの開発技術	オーム社 //
126	松本吉弘 他	ソフトウェア設計	朝倉書店 1995
127	Rook,P.E. 編 菅野文友 他訳	ソフトウェア信頼性ハンドブック	日科技連出版社 //
128	山田茂	ソフトウェア信頼性評価技術	HBJ出版社 1989
129	山田茂	ソフトウェア信頼性モデル	日科技連出版社 1994
130	Strang,J. 他著 鈴木麗 監訳	termcap & terminfo	アスキー 1992
131	合格情報処理編集部	通商産業省情報処理技術者試験 第二種の総整理	学習研究社 1995
132	Curry,D.A. 著 アスキー書籍編集部 監訳	UNIX C プログラミング	アスキー 1991
133	Garfinkel,S. 他著 山口英 監訳	UNIX セキュリティ	アスキー 1993
134	Loukides,M. 著 砂原秀樹 監訳	UNIX システムチューニング	アスキー 1991
135	Frisch 著 榊正憲 訳	UNIX システム管理入門	アスキー 1995
136	阿曾弘具 他	UNIX と C	近代科学社 1994
137	Todino,G. 他著 JUICE 監訳	UUCP 入門	アスキー 1993
138	O'Reilly,T. 他著 JUICE 監訳	UUCP システム管理	アスキー 1991
139	Lamb,L. 著 福崎俊博 訳	Vi 入門	アスキー 1992
140	横井与次郎	Visual Basic グラフィカル操作入門: Windows 版	ナツメ社 1995
141	Nicolaisen,N. 著 翔泳社テクニカルコア 訳	Visual C++バイブル	翔泳社 //
142	犬伏雄一 他	図解合格マニュアル新2種情報処理試験 1	通産資料調査会 //
143	犬伏雄一 他	図解合格マニュアル新2種情報処理試験 2	通産資料調査会 //
144	犬伏雄一 他	図解合格マニュアル新2種情報処理試験 3	通産資料調査会 //



平成8年度図書館カレンダー（その2）

曜日	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日			1 ●			
月			2			
火	1 後期開講		3			
水	2		4	1 ●元日		
木	3		5	2 ●		
金	4 図書整理日	1	6	3 ●		
土	5	2 ●臨時休館日	7	4 ●	1	1
日	6 ●	3 ●文化の日	8 ●	5 ●	2 ●	2 ●
月	7	4 ●振替休日	9	6	3	3
火	8	5	10	7	4	4
水	9	6	11	8	5	5
木	10 ●体育の日	7	12	9	6	6
金	11	8	13	10	7	7 図書整理日
土	12	9	14	11 ●	8	8
日	13 ●	10 ●	15 ●	12 ●	9 ●	9 ●
月	14	11	16	13	10	10
火	15	12	17	14	11 ●建国記念の日	11
水	16	13	18	15 ●成人の日	12	12
木	17	14	19	16	13	13
金	18	15	20	17	14	14
土	19	16	21	18	15	15 ●
日	20 ●	17 ●	22 ●	19 ●	16 休日開館	16 ●
月	21	18	23 ●天皇誕生日	20	17 後期定期試験開始	17
火	22	19	24 冬季休業日 ～1/16	21	18	18
水	23	20	25	22	19	19
木	24	21	26 図書整理日 (開室しない)	23	20	20 ●春分の日
金	25	22	27 ●	24	21	21
土	26	23 ●勤労感謝の日	28 ●年末年始の 休館～1/4	25	22	22 ●
日	27 ●	24 ●	29 ●	26 ●	23 休日開館	23 ●
月	28	25	30 ●	27	24	24
火	29	26	31 ●	28	25	25 ●卒業式
水	30	27		29	26	26 春季休業日 ～3/31
木	31 図書整理日	28		30	27	27
金		29		31 図書整理日	28	28
土		30				29 ●
日						30 ●
月						31 図書整理日

(開館時間)

□ 9:00~20:00

□ 10:00~16:30

■ 9:00~17:00

■ 図書整理日

(一般閲覧室・

ブラウジング

コーナーのみ開室)

● 休館日